

各関係機関団体の長
各病虫害防除員) 殿

福岡県病虫害防除所長

技術情報第3号

水稻の葉いもちの発生状況、海外飛来性害虫の発生状況および発生パターン図
について

県内の中山間地や北九州・京築地域の平坦地の一部において、葉いもちの発生が多い地区があります。今後の気象条件次第ではこれらの地域では本病の増加が懸念されますので、防除対策の参考資料として活用をお願いします。

また、7月5半旬に実施した巡回調査の結果、ウンカ類の主要飛来が7月4日頃であると考えられますので、発生状況及び発生パターン図をお知らせいたします。

1 作物名 水稻

2 病虫害名 葉いもち

3 発生地域 中山間地、北九州・京築地域

4 発生状況

(1) 7月5半旬調査の結果、発生量及び発生ほ場率は平年よりやや多かった。発生状況は、地域・ほ場による差が大きく、発生株率100%の多発ほ場も一部にみられた。

発生株率 11.3% (平年 5.8% 前年 3.6%)

発生ほ場率 29.5% (平年 19.1% 前年 20.8%)

(2) 福岡管区气象台が7月22日に発表した九州北部地方の1ヶ月予報によると、気温、降水量は平年並、日照時間は平年並か少ない、となっており、これまで本病発生の好条件が続いた地域では、今後も発生の増加が予想される。

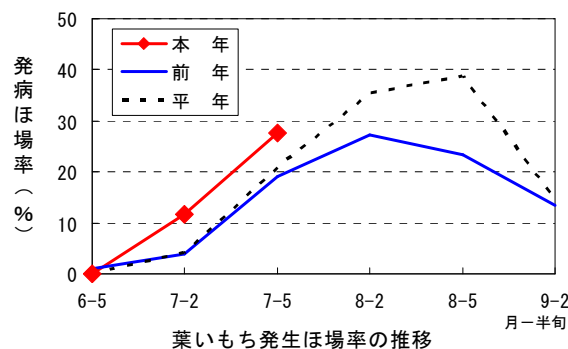
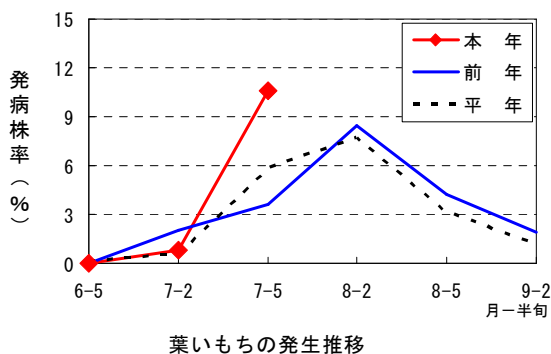
5 防除上注意すべき事項

(1) ほ場によって、発生状況が大きく異なるため、本田での状況をよく把握して、発生状況を確認する。出穂期に葉いもちの病斑があると穂いもちの発生源となるので、注意が必要である。

(2) いもち病が多い地域では出穂期直前と穂揃期の2回防除を行う。気温が25℃前後と低く、葉の湿潤状態が継続する場合は防除回数を増加する。降雨が続き、地上散布が困難な場合は早めに粒剤の施用を行う。

(3) 防除に当たっては、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を順守する。

(4) 今後の発生状況については、防除所ホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。



1 作物名 水稻

2 病害虫名 トビイロウンカ、セジロウンカ、コブノメイガ

3 発生状況

- (1) トビイロウンカの10株当たり払い落とし成幼虫数は平均0.02頭（平年0.27頭、前年0.27頭）で、平年・前年より少ない。発生圃場率は2.2%（平年15.2%、前年22.9%）で、平年・前年より低い。
- (2) セジロウンカの10株当たり払い落とし成幼虫数は平均8.9頭（平年35.9頭、前年64.9頭）、発生圃場率は63.0%（平年88.1%、前年97.9%）で、いずれも平年・前年より少ない。
- (3) コブノメイガの食害株数は0%（平年7.2%、前年5.0%）、食害葉率は0%（平年0.4%、前年0.2%）で、平年・前年より少ない。30㎡当たり払い出し成虫数は0.2頭（平年0.4頭、前年0.4頭）と、平年・前年より少ない。
- (4) 7月5半旬調査の結果、トビイロウンカは発生密度が低かったため、セジロウンカの発生状況から海外飛来性害虫の飛来日を推測した。セジロウンカの中・若齢幼虫の割合が高かった（94.8%）ことから、主要飛来は7月4日頃と推定された。

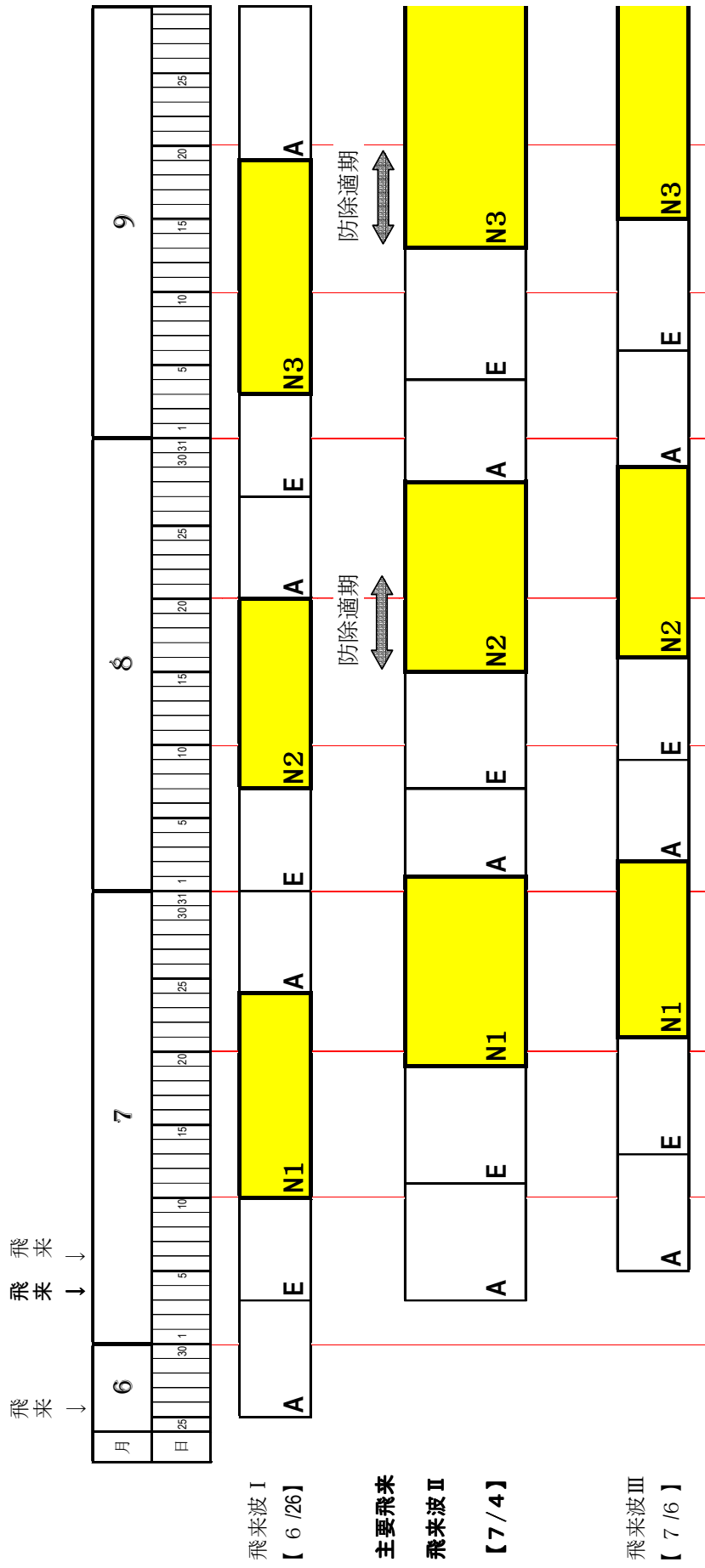
4 防除上注意すべき事項

- (1) 本年は、セジロウンカ、トビイロウンカとも飛来回数、飛来量が少なく、主要飛来の時期が特定しにくい状況にある。このような年次は、特に地域やほ場による発生状況が異なるので、それぞれのは場における発生状況を把握し、若齢幼虫期に防除を行う。
- (2) トビイロウンカの飛来量は少ないが、本種は急激に増殖することもあるので、今後の発生状況に注意する。
- (3) 無人ヘリコプターによる防除を実施する場合は、気温が高くなる前の早朝に実施する。気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化して防除効果が著しく低下する場合がある。
- (4) 育苗箱薬剤が施用された水田においてもウンカ類の発生が見られる場合があるので、防除所が発表する今後の情報に注意し、適期防除を行う。

5 海外飛来性害虫の飛来に基づく発生予想パターン図

- (1) トビイロウンカ（図1）
- (2) コブノメイガ（図2）

図1 飛来に基づくトビロウソク発生予想パターン図（平成23年度）



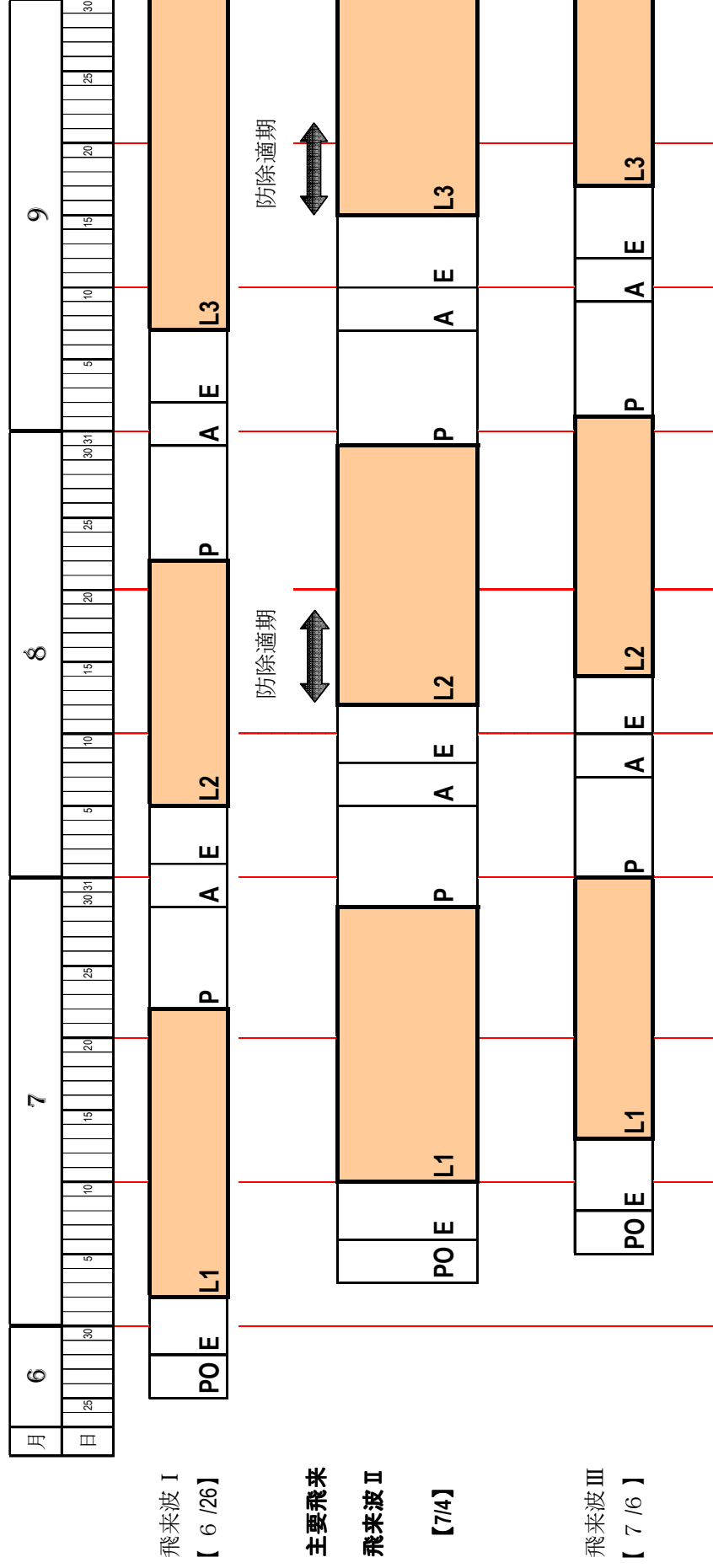
(注) (1) 发育段階

A: 成虫 E: 卵 N: 幼虫 (N の後の数値は世代を示す)

(2) 気温は太宰府のアメダスの平均気温を使用した

(3) 平均気温は7月20日までは本年のデータ、7月21日以降は平年値

図2 飛来に基づくコブノメイガ発生予想パターン図（平成23年度）



- (注)(1) 发育段階 PO: 産卵前期間 A: 成虫 E: 卵 L: 幼虫(Lの後の数値は世代を示す) P: 蛹
 (2) 気温は筑紫野:大宰府のアメダスの平均気温を使用した
 (3) 平均気温は7月21日までは本年のデータ、7月22日以降は平年値
 (4) コブノメイガはウシカ類と同時期に飛来したと推定